



大地

令和5年10月号

校長 指崎 邦久

あんなに暑かった日々が嘘のように涼しい朝夕になっています。立山連峰が冠雪したという知らせも聞かれ、季節の移り変わりを感じています。

学習発表会へ向けて

学校では、子供たちが一生懸命に学習発表会へ向けて学校全体が、活性化しています。発表の練習をしている声が聞こえてきます。朝の会では、元気な歌声が聞こえてきます。「英語のセリフを言えるようになりました」「自分のパートは難しいけれど、間違えずに演奏できるようになりました」「練習が楽しいです」と教えてもらいました。明るい声と表情にうれしくなります。学習の成果をたくさんの人に見てもらおうという目標をみんなでもち、一緒にがんばろうという雰囲気の中で練習を重ね、できるようになった実感が、明るい声や表情につながっていると思いました。機会を捉えて成長しようとする子供の力の強さに感心します。



明るい表情の裏には、いろいろな不安もあるのではないかと考えています。発表することが得意な子供がいれば、人の前に立つだけで足が震える子供もいるでしょう。できることや難しいことに次々と挑戦する子供がいれば、重い気持ちを前向きにしてがんばっている子供もいることでしょう。どちらも、誰の心の中にもある自然な気持ちです。いろいろな気持ちに折り合いをつけてがんばろうとしている子供の、目には見えにくいほどのわずかな行動の変化や心の動きもすくいあげ、やる気につなげたいと思っています。



10月15日に行われる学習発表会のテーマは「『目指すは最高の演技!』～みんなの笑顔があふれる舞台～」です。児童会の子供たちが、1年生もイメージをもてるように言葉を選びながら考えました。当日は、ぜひお越しいただき子供のがんばりを見てやってください。そして、子供が発表へ向けてがんばれたことや、練習を通して成長できたことを見つけて、これから先の困難を乗り越える自信となるように声をかけてやってください。



今月も、ご理解とご協力をお願いします。

みんなで安全に集団登校



一人一人が安全に気を付けて登校できるように話し合っています。各学級で集団登校の様子を振り返り、安全に気持ちよく登校できるように目当てを立てました。2週間後に、全校集会をして登校班の目当てを決めました。集会では、集団登校の仕方について考えられるように、先生が楽しい寸劇をしました。子供たちは「一列で、間を開けずに歩く」などと目当てを立てていました。目当ては、ボードに貼って掲示しました。目当てができたときには、登校班の班長がボードを返します。ボードを返すとそこには、「ありがとう」という言葉と子供が描いたイラストがあります。上級生は下級生を気遣い、下級生は約束を守って目当てを達成し、「ありがとう」がいっぱいになることを楽しみにしています。子供たちが自分たちで決めたことを、自分たちの力で達成することは意味のあることです。ぜひ、お子さんに集団登校の目当てを聞いてやってください。そして、集団登校の目当てを達成できるように見守り、声をかけてやってください。



アメリカインディアンの教え（一部抜粋）

作品を尊重するため、原文のままの表現を用いています。

先日、書類を見直していると、ある研修会での資料が目にとまりました。

子供たちはこうして生きかたを学びます。

批判ばかり受けて育った子は非難ばかりします
敵意に満ちたなかで育った子はだれとでも戦います。
ひやかしを受けて育った子ははにかみ屋になります。
ねたみを受けて育った子はいつも悪いことをしているような気持ちになります。
心が寛大な人のなかで育った子はがまん強くなります。
はげましを受けて育った子は自信をもちます。
ほめられる中で育った子はいつも感謝することを知ります。
公明正大な中で育った子は正義心をもちます。
思いやりのある中で育った子は信頼する心をもちます。
人に認めてもらえる中で育った子は自分を大切にします。
仲間の愛の中で育った子は世界に愛を見つけます。

作 Dorothy Law Nolte

訳 吉永 宏

子供に正しい行動を教えなくてはいけないのですが、この文にあるように、行動の奥にある心も大切に育てられるように改めて気を付けようと思いました。

